

市民のアイドルとして市長に



ふじの まさる
藤野 勝
むさしむらやま
武蔵村山市長(東京都)



満開に咲いた野山北公園自転車道の桜並木

武蔵村山市は、狭山丘陵の大自然を背景に、村山うどんや東京狭山茶などの特産品、また村山大島紬の生産といった地域の伝統文化、そして産業が調和したまちとして発展しており、かつての中世の武士団・村山党ゆかりの地でもあります。

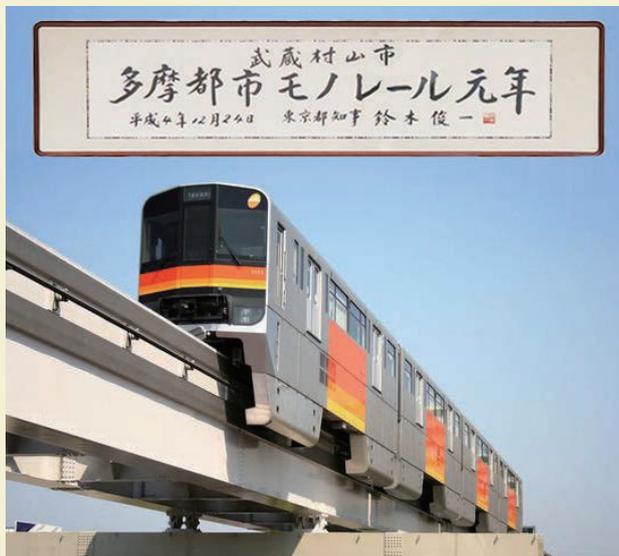
昭和45年の市制施行以来、都心近郊の緑豊かな住宅都市として発展を続けており、桜並木や多くの公園、観光施設、また大型商業施設がある中で、人と人との絆を大切にした市政運営を基本として、市民協働による地域コミュニティの活性化、福祉の向

市長として10年目、令和2年度がスタートした今、二つの夢の実現についてお話をさせていただきます。一つ目の長年の夢。旧村山町時代から、役場の職員として「将来、絶対町長になる」という夢を抱いていました。それは生まれ育った環境がそうさせたのだと思います。部屋、物置にあった祖父の町議会議員のポスター。毎日、人が出入りする家。本家の祖父が町長。そんな環境の中で育ちました。

そして昭和45年11月3日村山町から武蔵村山市へ、市役所も一新されました。奉職して10年、係長に昇任し、庁

長年の夢が現実に

上などに取り組んでいます。また、本市は多摩地域26市で唯一鉄道が通っていない自治体として、多摩都市モノレールの市内延伸を最重要施策として進めています。このたび、東京都の令和2年度予算に延伸整備に関する予算が含まれ、モノレール延伸に向けた大きな一歩となりました。この大きな一歩を踏み出した本年、本市は市制施行50周年を迎える記念の年となりますので、市の歴史を振り返るとともに、将来都市像である「人と緑が織りなす 夢ひろがる やさしいまち むさしむらやま」の実現に向けて、まちづくりに取り組んでまいります。



早期延伸が期待される多摩都市モノレール

内報に係長としての抱負を語っています。誌面では、「市行政は、市民の日常生活に密着して、きめ細かな愛情ある政治が行われなければなりません。これからは良き市民のアイドルとして努力、精進していく覚悟でございます」と締めくくっています。常に、政治家を意識した公務員生活を送っていました。

程なくして課長試験に合格し、障がい者施設の園長に昇任しました。日々、障がい者と接していると、「私の、公務員生活は何をしていたんだ、初心を忘れていないか」と、考えさせられる毎日でした。でも考えるより行動だ、この人たちに愛される園長になろう。この人たちの工賃を増やそう。そしてこの人たちの住みやすいまちを

作ろう。障がい者が住みやすいまちは、おのずから健常者も住みやすい。そんな情熱を持って園長を務めさせていただきまし
た。その園長時代がなかったら、今の市長
という地位はなかったと思います。

二つ目の長い夢の実現

二つ目の夢は、多摩都市モノレールの市
内延伸であります。



小学校の和 cultura 体験講座で尺八演奏する筆者(中央)

平成4年12月24日「多摩都市モノレール
元年」という軸を、元東京都知事の鈴木俊
一氏から頂き、28年が経過しました。その
間、歴代の市長、議員、市民の皆様には、
「モノレールを呼ぼう！市民の会」を中心と
して、延伸の実現に向けたさまざまな活動
を行っていただきました。また、私自身も
こうした市民の取り組みや熱意を直接お伝
えずべく、さまざまな機会を捉えて要望を
重ねてまいりました。今回の都の予算は、
このような市民の皆様の熱い想いがまさに
成果として結実したものであり、大変嬉し
く感じております。

ただ、今回大変な進展があったわけであ
りますが、これは通過点であり、まだゴー
ルではありません。今後、まずは基本設計
等の検討を着実に進めていただき、早期の
事業化を強く期待しております。

また、令和2年度は、市制施行50周年を
迎える記念すべき年であり、この一年を市
制施行50周年事業の年度と位置付け、各種
記念事業を行うとともに、11月3日
には、市制施行50周年記念式典を挙
行いたします。その式典に際し、東
京2020オリンピック・パラリン
ピック競技大会のホストタウンとし
て登録されているモンゴル国のウラ
ンバートル市ハンオール区と国際姉
妹都市協定を締結するために、協議
を進めてまいります。

一日二日を大切に

私は、市長として常に心に留め置き行政
を進めている言葉があります。それは「永
遠に生きるかのように学びなさい、明日死
ぬかのように生きなさい」と「生稽古・勉
強」です。仕事、趣味、プライベートも全
力で取り組んでいく。それが、私のモツ
トです。スポーツでは、ゴルフ、野球、
バレーボール等、伝統文化では、日本民謡、
三味線、尺八を趣味として嗜み、40年続け
ている尺八を吹いているときに、一番心休
まるひと時です。

市政運営に当たっては、これからも、初
心を忘れることなく「人と人との絆、そし
て信頼の市政へ」を基本とし、常に公平・
公正を心掛け、生活者の立場に立って考
え、生活者の視点による開かれた市政運営
に努めるとともに、市長自らが先頭に立っ
て、市長も、職員も日本一働く市役所を目
指してまいります。



古希チームと少年野球チームとの試合で登板